

われらが街の  
誘致企業

株式会社センチュリーテクノコア

▼本社 株式会社センチュリーテクノコア（東京都中央区日本橋）

▼所在地 清野袋3丁目8の1

▼従業員数 279人（男性50人、女性229人）

▼操業開始 1990年4月

▼主な業務 注文紳士服・婦人服の製造販売

▼会社概要（沿革）

当社は、既製品と異なり自分好みにカスタマイズできる一方で、フルオーダーよりも手頃な「イージーオーダースーツ」を製造しています。全国の百貨店や量販店、専門店に販売網があり、商品を自社工場で生産し、自動裁断機を導入することなどにより1週間の納期で製造するシステムを確立しています。

2018年8月に新棟を完成させ、工場規模が拡大したことから、作業効率を高めるためにAIを搭載した自動搬送機を導入しました。



▲自動搬送機が人に代わって別工程に荷物を運ぶことで作業効率が向上



▲リフトの昇降も自動で行う。先に乗っている自動搬送機が降りるのを待ってから、次の搬送機が乗ることも可能。

## 働く人からひと言！

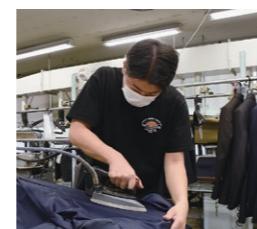


▲米村浩介さん

私は上衣の「仕上げプレス・検査」を担当しています。学生の頃から物作りに興味があり、自分でスーツを作成してみたいと思い入社しました。

センチュリーグループは生産から販売まで一貫して行っている業界でも数少ない企業体で、デジタルプリントなど最先端技術を取り入れています。

現在、親睦会「HC会」会長を務めており、多くの社員が参加できるようなイベントの企画・運営に取り組んでいます。これからも向上心を持ち、自分自身のスキルアップと会社発展のために頑張りたいと思います。



## 博物館のお宝 拝見

## 第10回 平尾魯仙「唐人図屏風」

平尾魯仙（ひらおろせん、1808〈文化5〉年～1880〈明治13〉年）は紺屋町に生まれ、国学者や絵師として活躍した人物です。

本作品は2つの屏風（びょうぶ）が1組になっています。右側の屏風の女性は仙女・西王母（せいおうぼう）で、漢代の皇帝が長寿を祈った時に不老長寿の桃を持って降臨したという伝説から、西王母の桃は長寿の象徴だとされます。本作品では西王母の右に立つ木に桃がたわわに実り、童子が



市立博物館が所蔵するお宝を、毎月紹介します。  
■問い合わせ先 市立博物館（☎ 35-0700）

彼女に向かって桃を捧げ持つ様子が描かれています。左側の屏風の男性は七福神でおなじみの福禄寿（ふくろくじゅ）です。福禄寿は幸福・財産・長寿をつかさどる道教の神仙で、鶴を連れ、杖を持った頭の長い老人の姿で描かれます。本作品では傍らに桃を置いた姿で描かれており、中国では鶴・鹿・桃といったおめでたいモチーフと共に描かれることも一般的でした。西王母と福禄寿がセットで描かれた本作品は、長寿の縁起を担いだ作品だと言えます。博物館で開催中の企画展3では、右側の屏風の西王母図を展示しています。



## 弘前の偉人たち

## 第10回 リンゴの神様

## 外崎嘉七（1859-1924）



嘉七（かしち）は1859（安政6）年、中津軽郡清水村樹木（今の弘前市）に住む外崎長八（ちょうやはち）の三男として生まれました。生まれつき気性の激しい、負けん気の強い子どもでした。

嘉七は、岩木山麓にあった農牧社に6年勤めた後、リンゴ栽培に没頭しました。病害虫などによる生産の危機を乗り越えるために袋かけと薬かけを広めたほか、低い樹形の推進、古くなった枝の更新や独特の形に改良を加えた剪定鋏（せんていばさみ）の共同開発など新技术を広め、リンゴ産業の発展に尽力しました。また、嘉七は「青森県のリンゴを発展させるには、

市教育委員会が発刊している「新・弘前人物志」から、弘前が生んだ偉人たちを毎月紹介します。皆さんのが知らなかった偉人と、会えるかもしれません。

■問い合わせ先 教育センター（☎ 26-4803）

敵をつくることだ」と抱負を述べ、長野県に指導に行きました。リンゴの栽培も互いに競争しあう相手があつてこそ、研究がなされて進歩発展するという意味です。青森県のリンゴ栽培に大きな足跡を残し「リンゴの神様」と呼ばれた嘉七は、多くの仲間に看取られながら65歳で生涯を終えました。市内樹木2丁目にある公園内には、嘉七の功績をたたえる碑が立っています。

「弘前人物志」は、弘前が生んだ傑出した人物を中学生の皆さんに知ってもらいたいという目的で、1982（昭和57）年に初めて発刊されました。紹介した人物をもっと詳しく知りたい人は、「新・弘前人物志」をぜひご一読ください。

